

公の施設の指定管理者における業務状況評価

令和元年8月23日

施設名	高知県立埋蔵文化財センター	所管課	高知県教育委員会文化財課
-----	---------------	-----	--------------

1 施設の概要

指定管理者名	公益財団法人高知県文化財団	指定期間	平成30年4月1日～平成35年3月31日
施設所在地	南国市篠原1437-1		
事業内容	○施設管理(埋蔵文化財保護の中核施設として最適な施設管理を行う) ○出土文化財等資料管理(出土遺物を適切に保管・管理し県内外からの依頼に応じて貸出等を行う) ○広報普及(発掘調査成果及び出土文化財を広く県民に公開することにより埋蔵文化財に対する保護の推進と普及啓発を図る)		
施設内容	○面積、施設・設備名、定員、開館時間、休館日、主な料金など 面積:本館(1,038.68㎡) 北館(518.40㎡) 南館(1,045.92㎡) 収蔵庫(1,527.52㎡) 開館時間:午前9時～午後5時まで 休館日:土・日・祝祭日、12月29日～1月3日 (巡回展の期間中、公開講座等開催日の日・祝祭日は開館) 利用料金:無料		
職員体制	常勤職員: 5名		

2 収支の状況

単位:千円

		平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(予算)
収入	県支出金	49,118	40,352	45,696
	補助金等収入	1,440	2,200	
	その他	542	790	788
	収入計 (a)	51,100	43,342	46,484
支出	事業費	6,094	7,078	8,045
	管理運営費	23,132	17,213	14,672
	人件費	21,874	19,051	23,767
	その他	0	0	
	支出計 (b)	51,100	43,342	46,484
収支差額 (a)-(b)		0	0	0

3 利用状況

	平29年度(実績)	平成30年度(実績)	令和元年度(目標)
①年間利用者数(単位:人)	3,884	3,630	3,700
②利用者意見等の反映	○利用者アンケート等の実施状況(時期・方法・回答数・調査結果等) 展示公開(遺跡から出土した土器類の展示や展示解説板による説明)や親子考古学教室等での来館者に対してアンケートを実施し、意見や感想の収集とニーズの把握に努めた。		
	○利用者意見等を踏まえた対策 ・講座内容の充実や資料作りを行なう際にアンケート結果を参考とした。一例として、出前考古学教室では実物の土器について、実見や実際に触れる等の機会をなるべく多くすることに努めた。 ・火起こし具セットの貸出し		
	○その他 [まいぶんセンターまつり] 土器づくりの教室にはセンターが発掘した縄文土器や弥生土器について職員が種類や製法を解説した後、縄や竹べらで模様を施し成形。「粘土遊びを思い出して楽しんでます」「粘土がすぐ固まって難しい」 [以下は、公開講座アンケート回答の一部] ・実物やパネルがあり、説明もわかりやすかった。ビデオもとても分かりやすく考古学が身近なものに感じられました。(「イオンショップモール出前考古学教室」) ・講座の最初にガラス玉の歴史について年代とともに作成や形、用途について説明してくださったのが良かった。(「ガラス玉づくり」) ・おもしろかったし、よく学べてよかった。昔の人のすごさが分かった。(「編布づくり」) ・銅鏡の作り方や歴史、埋葬の仕方など、いろいろなことが知れてよかった。非常に勉強になり楽しかったです。自分も歴史が好きなのでプチ知識も教えてもらって勉強になった。(「銅鏡づくり」)		
③その他特記事項			

4 平成30年度業務評価

項目	状況説明
①適正な管理運営の確保	○協定書、事業計画書の内容に従って適正な管理が行われた。 ○事故発生はなかったが、万一の時のために消防訓練等を実施し利用者の安全確保に努めた。また、定期的な美化活動日を定め職員により実施した。
②利用者サービスの維持向上	○ホームページを活用し、適宜、情報発信とともに、講座への参加経験者に事業案内を送付する等でリピーター確保に努めた。 ○公開講座等については、「見てもらう展示」「体験」に努めた。 ○キッズコーナーの整備や館外を意識したレイアウトし、地域の児童による来館者が目に付くようになった。 ○職員の研修会を開催し情報共有や知識の研鑽に努め、利用者に対して十分な説明ができるように努めた。
③利用実績	○館外で活動し出前考古学教室は、県内66校(2,602人)を対象に「地域の遺跡」に関する授業と体験学習を行った。また、学校行事や公民館等の学校以外の団体からも依頼があった。 ○安芸市では、移動展として市内の遺跡から出土した遺物展示やワークショップ等を開催した。 ○イオンモール高知でのワークショップ ○親子考古学教室では県内34市町村のうち26市町村から参加があり「また参加したい」と好印象であった。 ○中世山城の講座と現地でのフィールドワークを新たに実施し、山城ブームもあり希望者が多数であった。
④収支の状況	○県からの指定管理代行料に加え外部資金を活用するとともに、経費の節減に努めつつ適正な支出が行なわれている。
総合評価	A ○地道な活動や新たな視点の事業を導入し入館者確保に努めている。 ○親子考古学教室や古代ものづくり教室等の公開講座や館外で展開する各種事業は利用者サービスに努め引き続き好評であった。 ○埋蔵文化財保護の中核施設づくりを目指すなかで、ホームページによる情報提供と各種企画展、公開講座の実施、また、出土遺物の実物に触れる機会を設ける等のセンターの特色を活用し、知名度アップと考古学に対する関心の高まりを引き出す事業の実施に努めた。 ○施設管理については適正であった。